

科学技術振興機構による研究支援**Financial support byJST**川崎 敏祐^{1,2} (¹立命館大学糖鎖工学研究センター , ²JST)

独立行政法人科学技術振興機構 (Japan Science and Technology Agency 略称 JST) は、2003 年に科学技術振興事業団が法人化し、その事業を受け継いだものである。平成 18 年度の事業予算は 1134 億円であり、このうち 558 億円が競争的研究資金に充てられている。文部科学省の科学研究費に次ぐ大きな競争的資金である。JST 事業の特徴は、国が定めた戦略目標の達成に向けた基礎研究を推進している点である。すなわち、第 3 期科学技術基本計画の重点推進 4 分野を中心に文部科学省が目標を設定し、この目標のもとに JST が研究領域を設定し、この研究領域ごとに研究提案を募集している。事業はチーム型研究の“CREST”，個人型研究の“さきがけ”，その他“SORST”，“ERATO”，“ICORP”などがある。また、JST 内に設けられている研究開発戦略センターは、研究開発戦略の立案機能の中心を担っている。本シンポジウムでは、科学技術振興審議会基礎研究部会委員として事業活動に参加した経験にもとずき、これらの JST 事業、その仕組みに付いて紹介したい。